

パフォーマンステスト 中2・本文再話(全教科書対応)

教科書リテリングテスト【生徒用・課題カード】

Class _____ No. _____ Name _____

 **ゴール:** 学習した本文の内容を、絵とキーワードだけを見て自分の英語で再話できる

場面 教科書を閉じて、本文の内容をALTに紹介する場面。暗唱ではなく「自分の言葉で伝わる」がゴール。

手元に置けるもの: 絵(教科書のイラストのコピー等) + キーワード5語まで
話す量: 4文以上(本文の丸暗記でなく、自分の文でOK。多少内容を足しても可)

準備 テストまでにすること(単元の学習 + 授業1回)

リテリングの段階練習(本文→穴あき→キーワードのみ)を単元内で実施(本サイト「リテリング指導の段階表」参照)。自分のキーワード5語を選ぶのも練習のうち。

本番 時間: 1人90秒 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事!)
正確さ	本文の言語材料(時制・つながり言葉)が使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	聞き手(ALT/先生)に伝える姿勢・アイコンタクト

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい

このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	読んで理解した内容を、自分の言葉で再構成して伝える力(受容→産出の変換)
なぜ必要か	「読めた」と「使える」の間の橋がリテリング。キーワード5語制限が丸暗記を無効化し、内容理解・時制運用・つなぎ言葉の総合力を露出させる。高校の「要約」「発表」活動への最重要な準備。

評価

ループリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 内容の要点がそろい、自分の言葉・追加情報もあった	B(2点)＝評価規準 要点(だれが・何を・どうなった)が4文程度で伝わった	C(1点) 断片的で内容が伝わらない
正確さ	A(3点) 時制・接続詞がほぼ正確	B(2点)＝評価規準 誤りはあるが流れは通じる	C(1点) 文がつながらない
流暢さ	A(3点) キーワードを見ながらも流れが自然	B(2点)＝評価規準 止まりつつ自力で完走	C(1点) 暗唱の再生停止状態
態度	A(3点) 相手を見て、反応を確かめながら	B(2点)＝評価規準 顔が上がる時間の方が長い	C(1点) メモを読み上げるだけ

✓ C→Bの手立て: キーワードを8語に増やして再挑戦。絵を指しながらでもOKとする

運用

当日の流れ(2コマ)

1	ループリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1人90秒)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ「丸暗記した子が高得点」にならないよう、ループリックの流暢さは『自分の言葉らしさ』を見る、と事前宣言を。本文と一語一句同じでなくてよいと知った瞬間、生徒の顔が変わります。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。